

クリスマスメッセージ

桃陵乳児保育園 桃陵保育園



「いと高きところには栄光、神にあれ、
地には平和、喜び給う人にあれ」

(ルカによる福音書2章14節)

いつの日かのクリスマスに 人々がまるでおもちゃで遊ぶように爆弾と戯れる時代
ではなくなっているはず

いつの日かの12月の暖かな日には すべての人々が平等だと心から思えるはず

いつの日かのクリスマスには 戦争はなくなっているはず

クリスマスが本来何のための日であるのかを理解した時 僕らが人生の持つ真の価値
を見出した時 世界には平和が訪れるはず いつの日か 僕らの夢は叶う いつの日か
全ての人々が平等な世界に生きることが出来る

僕や君が活着ている間には難しい話かもしれないけど でも いつの時代かのクリス
マスにはきっとね、

この詩は、1967年に、アメリカのシンガーのステービーワンダーによって歌
われた“Someday at Christmas”という歌の歌詞です。邦題では「思い出のク
リスマス」として知られていますが、正確には「いつかクリスマスの日に」と
した方がよさそうです。

この歌は、長期化するベトナム戦争と、繰り返されるアメリカ軍によるベト
ナムの人々の虐殺、黒人への苛酷な人種差別など、社会的な不正義に抗議する
大きな運動がうねり始め、それが日本を含め世界各国に広がっていくことを背
景として歌われた歌です。

個人的には、学生時代、時々使っていたサークルボックスが、「ベトナムに
平和を!市民連合」のボックスで、団体としては解散していましたが、当時の
雰囲気色が濃く残る異質な空間でした。ただ、今の私に繋がる、反戦や平和へ
の思いはそんなかわりから学んだように思います。

ともあれ、今から50年以上前年の歌ですが、今、この歌はどんな風に響くの
でしょうか。残念ながら、いまだにアメリカでの人種差別にかかわる事件は繰
り返され、中東情勢は不安定な状態が続くなど、人の命に関わる深刻な人権侵
害は後を絶ちません。

日本においても、様々な社会的不合理の中で、生活さえままならず苦しみ、
孤立を深める多くの人々が私たちのすぐ隣にいます。

歌詞にある“クリスマスが本来何のための日であるのかを理解した時～全て
の人が平等な世界に生きることが出来る”の意味をかみしめつつ、“いつの時
代かのクリスマス”を待ち望みたいと思います。

今日の子どもたちの歌声やメッセージ、祈りや一人ひとりの思いが、戦禍や
貧困にあえぐ世界の人たち、病床で癒しを待つ人たちに確かに届きますように。

クリスマスおめでとう！